

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもひろばPIYOっ子		
○保護者評価実施期間	2026年2月20日		2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年3月3日		2026年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援事業に長く携わっていた職員が、今まで培ってきた専門性を活かしながら一人ひとりの発達に応じて療育内容を考え対応していけること。	①子どもたちが見通しを持って安心して過ごせるように、可視化されたスケジュールを個々に提示している。 ②ルールのある遊びを可視化して伝え、理解を促したのちに経験を重ねていること。 ③スケジュールに併せ、事前に終わりの予告をすることで気持ちの切り替えを行っていること。 ④順番を守ること、待つこと、物の貸し借り等他児とのコミュニケーションを伴うソーシャルスキルについても分かりやすく可視化して伝え、理解をもとに経験を促していること。	①個々の様子から評価を行い、より分かりやすい手段について検討をしていくこと。 ②集団生活に般化されていくよう、集団の場で行われるルールのある遊びを見通した上でPIYOっ子でのルールのある遊びの経験を重ねていくこと。 ③切り替えが難しい児童でも、集団生活の経験を加味しながら話し合い、交渉し、時にはレベルを下げて対応をしていながら集団生活のルールは守る経験を重ねていくこと。 ④待つことが苦手な児童には、部屋を分け、少人数から待つ経験(見通しが持ちやすいよう)を促していくこと。
2	・構造化しやすい環境であること。	・集まりの場所、光の場所(リラクゼーション)、お勉強の場所、食事の場所、運動をする場所の部屋を明確にして、子どもたちがどこで何をするのかを分かりやすいようにしている。	・刺激が少ないよう unnecessaryな物は片付けることや、毎日の整理整頓を行うこと。 ・子どもたちの行動について評価をしながら、分かりやすい場の提示の仕方について再構造化を行っていくこと。
3	・戸外でも身体を動かして遊べる場があること	・中庭、COCOっ子広場と戸外で遊ぶ空間もあり、室内の刺激が少ない場でルールのある遊びについて抑えた後は、広い空間で実際の経験を促している。 ・感覚統合の視点で、広い空間を利用しながら、分離動作、協調動作等の運動面の経験を促している。	・中庭やCOCOっ子広場で遊ぶ時のルールについて職員が統一して対応できることや、職員が個々にルールを可視化して伝えられるアイテムを持っていること。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・嘔吐処理をする際、子どもたちのシャワーをする環境が簡易な物でしかないこと。	・シャワー室が高齢者側の空間にしかない建物の造りであることが要因。	・カーテンを設置するなど、シャワー室となる個室について考え工夫する。
2	・インフルエンザ等、感染症について、一度に数名の職員が感染してしまったこと。	・換気をして、空気清浄機をつけながらだったが、食事を子どもたちと取る対応を行っていたことが感染が広がった要因。	・食事の指導は行いが、職員と子どもの食事の環境は分けて対応する。
3			